

廃棄会議を開く

PF ドラッカー氏の著書「プロフェッショナルの原点」発行 2008年 2月 15日より ご紹介いたします。

廃棄会議を開く(156~ 157p)

廃棄とは、あらゆる種類の組織が自らの健康を維持するために行っていることである。

いかなる有機体であっても老廃物を排泄しないものはない。

さもないと自家中毒を起こす。

既存のものの廃棄は、企業がイノベーションを行うようになるうえで絶対必要なことである。

翌朝自分が絞首刑に処されるとい知らせほど人の心を集中させるものはないとは、かのサミュエル・ジヨンソン博士の言葉である。

同様に、製品やサービスが近いうちに廃棄されることを知ることほど関係者の心をイノベーションに集中させるものはない。」

『明日を支配するもの』

「自らが成果をあげ、組織が成果をあげることを望む者はあらゆる活動を常時点検する。

これはいまも価値があるかを問う

答えがノーであるならば、真に意味のある活動に集中するために、それらのものを捨てる。」

『経営者の条件』

とるべき行動

・早期廃棄のための会議を設定する。

・いま捨てるべきものは何か？

身につけるべき姿勢

・廃棄を常態化する。

・新しいことを始めるときは、必ず何かを捨てる。

<経営のヒント>

廃棄会議を開く

さすが・・・ドラッカー博士ですね。

廃棄することは、だれでも必要だと思っています。・・・つまりは知っている！

しかし、思っても誰もなかなか実行できないことです。・・・だから本当はわかっていない！

ではどうすればいいのか？

それには、体系的に廃棄するような仕組みをつくることとっています。

人間は誰でも、一度身につけたこと(もの)は、なかなか捨てることはできません。

いつかは役に立つのではないか？

いろいろな自分勝手な理屈を立てます。

もし、人間が老廃物を廃棄出来なくなったら・・・それは死を意味します。

有機体(人や動植物)も組織(企業など)も・・・全く同じことですね。